

令和4年度 東久留米市立 大門中学校 学校評価報告書

学校教育目標	健康「責任」「友情」「創造」「努力」を尊重し実現する資質を備えた人間を育成し 生徒一人一人に幸せな未来を切り拓く力を育てる そのために、 ○ 安全・安心な学校生活を保障する。 ○ これからのグローバル社会に生きる力をイメージする。 ○ 生徒一人一人の力を最大限に伸長する。	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	(1)生徒に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)を育む学校 (2)生徒の自己有用感を高め、可能性を最大限に伸ばす学校 (3)保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校	4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき
			【目指す児童・生徒像】	(1)目標に向かい主体的に学び考え行動する生徒 (2)自分の役割や責任を認識し、そこに価値を見出し自己肯定感をもつ生徒 (3)心身の健康を保持増進し、自分の可能性に挑戦する生徒 (4)課題解決への意志をもち、よりよい未来社会を創造しようとする生徒	
			【目指す教師像】	(1)授業を大切にし、生徒一人一人の力を伸ばさせるため、常に授業力の向上を目指す教師 (2)厳しさと温かさを兼ね備え、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばすとともに、生徒に社会人としての範を示す教師 (3)生徒、保護者や地域社会の期待に応え、厚い信頼を得る教師	
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】人間関係形成能力の育成とそれを生かした学級作り、不登校傾向の生徒への組織的対応、特別支援教室の活用、ICT機器の様々な教育活動での活用 【課題】感染症予防の中での生徒の活動の保障、個別最適な学び、職員の健康とライフワークバランス				

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和6年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価	次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	○キャリア教育の充実とそれによる自己肯定感の強化	○キャリア教育による自己肯定感の強化	○キャリア教育での自己肯定感を高める取り組みの各学年での実施	○生徒アンケート回答での自己有用感ありが A:85%以上 B:65%以上 C:50%以上 D:50%未満	3	B 71.5%	3.25	・学年が上がると成果も上がることに期待します ・青少協へのご協力ありがとうございました ・職場体験の実施の難しさも	・感染予防対策をしつつ、諸行事の取り組みの中の係活動と事後の振り返りで、自分の貢献を確認させ自己肯定感につなげていく。 ・キャリア教育で、それぞれの生徒に自己の将来への展望を持たせる取り組み(ドリームマップの取り組みなど)を続けていく。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	○人間関係形成能力育成 ○道徳の授業改善	○大門タイムでの人間関係形成能力の意識的な育成 ○学級経営へのQUTテストの活用	○大門タイムの各学年での定期的な実施 ○QUTテスト実施後の分析と働きかけの実施	○2回目QUTテストでの友人との関係が全国平均以上の学級 A:8学級以上 B:7学級以上 C:6学級以上 D:6学級未満	4	A 9学級	4	・大門タイムの成果、QUTテスト導入が良い ・大門タイム、子ども達はゲーム感覚で問題を解決する力がついているのでは ・友達との人間関係などわかりにくいこと⇒QUTテストで把握 ・大門タイム効果が上がっているようです ・人間関係は良好のようです	・大門タイムの継続 ・ハイパーQUTテストの分析を学年で検討するための時間の確保
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	○学校いじめ防止対策委員会を中心とした未然防止、早期発見、組織的な対応の確立	○各校内組織の情報共有の効率化による早期発見と組織的な対応	○生活指導部会・教育相談委員会をそれぞれ30回/年以上実施	○生徒アンケート回答でのいじめ解消への意識ありが A:95%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	4	B 93.9%	3.5	・93.9%は高いけれど100%を目指して欲しい ・初期対応の重要性を感じた ・アンケートによって初期の段階で対応できているようです ・アンケートに情報が上がってくる⇒先生との関係が良いのだと思う	・生活アンケートの丁寧な実施と、その後の生徒の人間関係に配慮した丁寧な指導により大人に相談することへの心理的ハードルを下げる。また、生徒へ、身の回りのいじめやトラブルへ実際にできるであろう具体的な対応を指導する。
4	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	教育相談体制の充実	○個に応じた支援、不登校生徒への適切な対応、及び外部機関等との適切な連携による、卒業後も含めた指導	○特別支援教室巡回指導教員、スクールカウンセラー、SSW、市適応教室、子ども家庭支援センター、児童相談所との連携強化	○特別支援教室、スクールカウンセラーとの毎週の情報共有と方針確認	○不登校傾向生徒の状況改善が A:75%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	4	A 83%	4	・家庭環境などもあるので学校だけでは解決が難しい点もあると思う ・不登校生徒への対応も進んでいる	・毎週の相談委員会での報告を効率化し、SC等からの助言を充実させ、登校渋り等への初期対応などの対応方針に生かす。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	○授業改善推進プランによる指導方法の工夫・改善	○指導と評価の一体化を目指す英語科の取り組みの評価と改善	○英語科の先行的な授業改善の取り組みの効率改善と生徒評価からのフィードバック	○生徒アンケート回答での授業改善への肯定的評価が A:85%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	2	B 80%	3.75	・単元ごとのテスト等、英語科の教員の負担増の側面もある	・英語科の単元末テストのタイミングの工夫とそこへの生徒の意識の向けさせ方の指導改善を行う。
6	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	英語教育と国際理解教育の推進	○英語科での生徒の学びに向かう意欲の向上と国際感覚の醸成	○TGG利用による国際理解と学習意欲の向上	○TGG利用についての指導の工夫とその評価	○生徒アンケート回答での英語学習への意欲ありが A:75%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	4	A 95.9%	4	・TGG利用での興味向上 ・立川に設置されたTGGの利用も ・TGGの効果が上がっているようです	・来年度も行事の時期を調整し第2学年でTGGでの学習を行う。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	○ICT機器の効果的な利用による、生徒の学習意欲の向上	○生徒タブレットと既存のICT機器の活用による個別最適な学び	○授業や特別活動でのタブレットの効果的な活用と新しい活用方法の試み	○生徒アンケート回答での活用への肯定的評価が A:80%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	3	A 90.3%	3.75	・タブレット・プロジェクター等のさらなる活用を期待 ・生徒総会等でのタブレットの利用も知った ・タブレットをいろいろ活用しているようです。これからの取り組みに期待します ・学校保管が持ち帰りかは、実情自宅学習に活用しているのか、持ち運びのときの重さなど検討も必要 ・タブレットの活用状況について保護者へのPRを	・デジタル教科書の活用方法を試しながら研究する。 ・長期休業時のタブレットの活用等、他校の実施例を参考に各教科で検討する。
8	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	○主体的・対話的な深い学び ○指導と評価の一体化	○校内研究授業での指導と評価の一体化、主体的・対話的な深い学びへの取り組み	○校内授業研究の効果的な実施	○生徒アンケート回答での教員の授業改善取り組みへの肯定的評価が A:75%以上 B:65%以上 C:50%以上 D:50%未満	4	A 90.7%	4	・若い先生の授業力と共にベテランの先生の授業力も向上を ・ベテラン教員の研修参加も大切に	・授業力向上のための校内研究をベテランと若手を組み合わせた形で進める。
9	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	○個別の配慮が必要な生徒への特別支援 ○特別支援教室の活用と充実	○特別支援コーディネーターを中心とした教育相談委員会での大門けやきとの連携強化	○全職員による多様な生徒の特性を理解しての効果的配慮 ○特別支援教室での活動内容への教職員の理解を深めることによる適切な教室活用の推進	○大門けやき利用生徒の状況安定・改善が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	3	A 全員	3.75	・保護者が知らないと感じていることも ・各特性の理解と対応を ・アドバイスをいただき進めていって欲しい	・特別支援教室【大門けやき教室】について、設置の目的を保護者会で説明する。
10	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	○学校での教育活動への地域人材活用 ○青少年健全育成協議会との活動の再構築	○学校行事での青少協との連携による活動の工夫 ○外部人材による活動の新規開拓	○青少協との連携活動の実施 ○外部人材による体験活動実施	○体験活動の事後のまとめにおいて生徒の達成感が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	4	A	4	・地域清掃・演奏会が良かった。生徒も楽しそうに活動していた。 ・学校公開にも期待 ・地域清掃の吹奏楽部等との連携は良かった。子ども達の励みになっているよう	・青少協との連携事業の充実とそこでの生徒の活躍場面の設定を進める。